第３次 自己改革プログラム【R5～R7】

令和６年度

進捗状況報告書

淡路日の出農業協同組合

〒656-2131 兵庫県淡路市志筑 3112-14
TEL：0799-62-6200
https://www.ja-awajihinode.com

ＪＡ淡路日の出では、「経済事業改革の実践」「地域農業の持続的発展に向けた取り組み」「経済事業体制・機能の強化」に向け、さまざまな取組みを行っています。
このような取組については、広報誌「さんらいず」やホームページなどで随時お知らせいたします。

お問合せはＪＡ淡路日の出　経済センターまで

統括経済センター	TEL：６２－６２００	北淡経済センター	TEL：８２－１２３５
洲本経済センター	TEL：２２－１１２２	一宮経済センター	TEL：８５－０１８０
津名経済センター	TEL：６４－００２０	五色経済センター	TEL：３５－０２２１
東浦淡路経済センター	TEL：７４－３３２１		

新時代に向けた持続的に発展する農業

基本目標

- ▶ 経済事業改革の実践
- ▶ 地域農業の持続的発展に向けた取り組み
- ▶ 経済事業体制・機能の強化

ひのりん

あわりん

ＪＡ淡路日の出

ＪＡ淡路日の出　第３次自己改革プログラム取り組み状況について（令和６年度）

基本方針

新時代に向けた持続的に発展する農業

取り組み項目	具体的な取り組み項目	実施事項	令和６年度に取り組んだ事項（実績）
(1) 経済事業改革の実践	① 地域の条件に対応したコスト低減・労力削減対策	1) スマート農業の導入及び普及支援（ラジコン草刈機を活用した農地管理の効率化）	ラジコン草刈機（RJ700）を１台追加導入し、各経済センターにて利用促進を図りました。利用件数は 154 件（内団体利用件数 67 件）で、前年対比８件の増となりました。
		2) レンタル農機の効果的な更新　運営体制の随時検証による事業運営の決定	今年度は機械更新は未実施でしたが、農地管理機械（ハンマーナイフモアー）の利用が増加し、4,647 千円で昨年対比 133.8% でした。
	② 経済事業渉外体制の配置	1) ふれあい訪問活動要領に基づく外務推進体制の充実	経済センター職員によるふれあい訪問活動を実施しました。活動強化に向けて、職員による企画でふれあい購買キャンペーンを３回実施し、総訪問数は 5,413 件でした。
		2) 生産購買全般を取り扱う経済渉外を配置	各センターに営農相談係を２名配置し、月１回の営農担当者会において実績検討、推進策の協議を行い購買に対する意識づけを重ねました。
	③ 販売取扱目標の設定と進捗管理	1) 季節限定商品「淡の春」の生産拡大と販売促進	淡の春販売促進のため販売促進資材作成により協力５市場への巡回訪問を行いました。市場（京果と丸果）とタイアップした店頭販売を実施しました。（阪急オアシス１店舗ほか４店舗）「定数詰めたまねぎ」出荷を継続し、10,077 箱で昨年対比 218% でした。新たに「極早生淡路島たまねぎ（個撰）」に取り組み、出荷規格を設けました。
		2) 業務用米を軸とし、営農組織を対象に作付け提案及び複数年契約の推進活動	営農相談係を中心に「業務用米（どんとこい）」の推進活動を行いました。（全契約戸数　57 戸）また、昨年度単年契約先に複数年契約を提案しました。（複数年契約戸数 53 戸）
	④ 農産物直売所を通じた所得増大・生産拡大	1) 直売部会員への生産指導の強化	栽培管理記録簿の提出義務化に向けた必須研修会を令和７年２月に３回に分けて開催しました。
		2)JA タウンの事業拡大と取扱強化による販売チャネル多様化への対応	販売チャネルの多様化に向けて JA タウンでの販売に取り組み、YouTube の「ゆるふわちゃんねる」で「御食菜采館」と「JA タウン」の PR 動画を配信しました。
	⑤ 和牛の増頭対策と経営支援	1) 優良後継牛の保留・導入への助成支援と出荷雌牛に対する PCR 検査支援	毎月の特徴検査において、自家保留牛を対象に準認定牛・準候補牛の認定を行いました。受検牛の中から畜主が希望する雌牛に対し、牛伝染性リンパ腫ＰCR 検査を行いました。
		2) 多様な担い手育成支援、組織集団活動の活性化を図り、増頭対策および 多頭化経営、複合経営の促進	増頭・多頭化を進める畜産農家に対し、肉用牛安定対策補完事業での助成を利用した牛舎改造及び器具機材の導入を提案・推進しました。
	⑥ 農産物の安全・安心への取り組み	1) 残留農薬検査や HACCP（衛生管理の国際的手法）に沿った衛生管理食と安全・安心の実現への取り組み	残留農薬検査計画を立て、順次検査を行いました。また、HACCP に準じた衛生管理を行うため、直売所２ヶ所、地方卸売市場１ヶ所の担当者が基礎研修会に参加しました。
		2) 経済渉外による GAP（生産工程管理）推進と実践支援	JGAP 指導員が営農組合や部会の指導を行いました。（GAP 取組推進の集落営農組織　３組織）
(2) 地域農業の持続的発展に向けた取り組み	① 新規就農者等、多様な担い手対策	1) 新規就農者確保に向け、行政と一体となった支援	洲本市就農相談会（洲本市、洲本農林、南淡路農業改良普及C、ＪＡ）７回開催（相談者 11 名）、淡路市就農相談会（淡路市、北淡路農業改良普及C、JA）９回開催（相談者 23 名）に参加しました。
		2) 定年帰農者向け農業経営モデルプランの設定	定年帰農者向けにたまねぎ・秋冬作野菜新規栽培者講習会を淡路市（8/29：参加者 26 名）と洲本市（8/30：参加者 18 名）の２会場で開催しました。
	② 人材のマッチング強化による労働力確保	1) 無料職業紹介事業による農家と求職者の仲介	９月に雇用管理と短期人材採用方法について研修会と個別相談会を行いました。（参加者 35 名）
		2) 生産基盤維持拡大につなげる農業労働力支援	全農兵庫との連携により、白菜収穫作業受託での労働支援を試験的に行いました。（3 件）
	③ 集落営農の組織化・経営力強化支援	1) 集落営農組織の法人化支援	洲本農林・洲本市・淡路市・普及センターと連携し、４者会議などで定期的な情報交換を行いました。
		2) 集落営農組織への経営支援	集落営農組織に向けて業務用米どんとこいと玉葱の作付け提案を行いました。
	④ 生産部会組織の活性化	1) 部会組織の集約再編による活性化	部会構成員・活動内容の調査結果をもとに、集約・再編を協議・進行しました。また、たまねぎ部会の再編に向けて、生産者大会にて再編（案）・統一（案）を周知するとともに、デジタル化に向けた LINE WORKS を活用したコミュニケーション実証実験を行いました。
(3) 経済事業体制・機能の強化	① 営農・経済事業体制の機能強化	1) 出向く体制による営農指導・情報提供体制の強化	農家訪問により農家台帳の作成を行いまた。また、タブレットにより生産者への情報提供を行いました。
		2) 各センター間連携による効率的な事業運営と地域ごとの特性を考慮した人員配置計画	統括経済センターが中心となって、施設・作業種類・時期等に応じた応援を行いました。（ライスセンター業務応援５人役、経済センター窓口業務 15 日間）
	② 経済施設の機能再編と物流体制の整備	1) 実態に応じた、物流・配送体制の再構築	令和５年度の購買品における配達・引取りの取扱量により、実績分析を行いました。（数量ベース配送率、肥料 23.6%、農薬 18.8%、飼料 13.7%、乾牧草 16.9%）
		2) 購買品のネット注文等、ホームページの活用拡大	購買のクレジットカード決済機器を各経済センターに令和６年５月に導入し、令和６年９月より運用を開始しました。
	③ 経済担当職員の計画的な人材育成	1) 人材育成計画による職員の技術的なスキルアップ	全農及び中央会主催の研修会へ積極的に参加を促し、自らのスキルアップを図りました。経済センター若手職員向けに営農基礎や肥料・農薬、水稲圃場、税務研修などを開催しました。

活動状況

夏の農機・自動車合同展示会

「淡の春」大手量販店による店頭販売

共撰きんせん・菜の花部会目慣らし会

第 106 回兵庫県畜産共進会審査会場

一宮地方卸売市場が１市場としてスタート

ＪＡ全農提供「ゆるふわたいむ」の収録

食の安全・安心に向けた特別講演